

Vol.16

がんばる ファーマー応援記

上半俵 人見浩農園
代表 人見 浩 さん



イベントで米の試食提供する人見さん

今回は、上半俵地区の人見浩農園の代表 人見浩さんにお話をお聞きしました。

人見さんは那須高原で稲作農家の長男として生まれ、宇都宮大学農学部農学科で稲作栽培を学び、大学時代の恩師が開発した「ゆうだい21」を那須高原で栽培確立しコシヒカリより高い食味の評価を得たこととコシヒカリ農家との差別化を図るため人見浩農園米販売の「ゆうだい21」を栽培、販売しています。

また、人見さんは水田の管理にスマート農業を導入しており、その便利さを実感し、ぜひ他の農家の方々にもスマート農業を紹介したいとの事で、今回取材させていただく事となりました。

▼スマート農業とは、具体的にどのようなことしているのですか。

宇都宮市に本社のある株式会社 farmo (ファーム) の水田水位センサーを5台導入しました。田植え後に設置し稲刈り直前に回収し毎年繰り返し使用します。

私は約20枚、面積が合計4haの水田で主に「ゆうだい21」の慣行栽培しており、水位計は5

カ所の水田に設置し、スマホで水位を折れ線グラフやデータを数値で表示し、現地になくても管理できるようになりました。5台で10万円弱の費用で導入でき、太陽光で運転できるので以後の費用はかかりません。

▼導入してよかったと思う事や感想を教えてください。

労力や時間軽減は最も大きい効果でしたが、同時に心配が軽減されたことがよかったです。

台風や大雨など危険で水田に近づけない時や夜間等に水田から離れた場所でも水位の変化で災害を早期発見でき、被害を最小限に食い止めることができます。

また、通常の水管理はもちろん、特に中干や間断灌水に自信を持つことができるようになったことと、水位より稲の観察に時間を充てられることで増収と食味向上につながり那須地域良食味コンクールで最優秀賞を受賞でき、また、空いた時間を米直販のイベント出店や営業に充て、販売増につながりました。

今年はその須町ふるさと納税のお礼の品の中で運営サイトのブランド米特集に白米5kgを2万

円で掲載していただきました。

▼今後の目標、意気込み等をお聞かせください。

この水位計はコストや労力削減だけでなく農地拡大や売上向上など費用対効果は絶大です。

日本の食料や米農家消滅の危機にこのような技術を広報することはとても効果的と確信しております。少しでも興味があればぜひ導入を検討してみてください。

◎人見さんはこの取材後に米・食味分析鑑定コンクール 都道府県代表お米選手権にて金賞を受賞されました。おめでとうございませう。今後益々のご活躍をお祈りいたします。



人見さんの使用している水位計